

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：齋藤大地 所属：東京学芸大学附属特別支援学校／中学部 記録日：平成 29年2月 11日  
キーワード：「知的障がい」「外出支援」「自信」「アシストスマホ」

## 【対象児の情報】

- 学年：中学部3年
- 障害と困難の内容：知的障がい

## （基礎情報）

- ・中度から軽度の知的障がいを伴う中学部3年生女子。
- ・小学校は3年生まで通常学級、4年生から特別支援学級に在籍。中学部より本校に入学。

## （学習面／生活面）

- ・学習面では読み書き及び算数が3、4年生程度。  
買い物に関する基本的なスキル（商品をレジに持っていき、料金を支払い、商品を受け取る）は獲得しているが、支払いの際に財布から硬貨を出し入れすることに時間がかかる。
- ・生活面に関しては、基本的に着替え及び食事は自立しているが、空間認知の弱さと聴覚過敏の困難を抱えている。

## （その他）

- ・初めての事に対する抵抗感が強いが、昨年度の「魔法の宿題」の取り組みにより、“予習をすること”が有効であることを本人自身が自覚しており、家事に関しては自信を持って取り組むことができている。



▲コンビニでの買い物の様子  
(アシストスマホで合計金額を計算中)



▲本で授業の予習をしている様子

## 【活動進捗】

- 当初のねらいと活動の方向性  
「安全に配慮した上で、一人で目的地に行き買い物を行う。」  
→昨年度の「魔法の宿題」における取り組みでは、掃除や洗濯、調理などの家庭生活に関する課題を扱い、自信を深めていった。そこで、今年度は本人の“一人で買い物をしたい”という本人の願いを実現するための取り組みを行うこととした。

○実施期間：平成 28 年5月から平成 29 年 2 月末

○実施者：齋藤大地

○実施者と対象児の関係：学級担任



▲昨年度と今年度の取り組みの関係

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

- ・学級の友達が何処其処へ行ったという話を聞いた時に「私も行ってみたい」と思っているが、一人で外出することに対する不安感が強い。一人で外出できる場所に行ったことのある決まった2～3ヶ所である。
- ・昨年度、授業でマップアプリを利用した地域の探検をした際、自分が今いる位置と目的地との関係が分からず、地図を見ながら目的地にたどり着くことが出来なかった。
- ・不測の事態が起きた時に、適切な対応をとることが難しい。

### ○活動の具体的内容

#### <活動内容の概要>

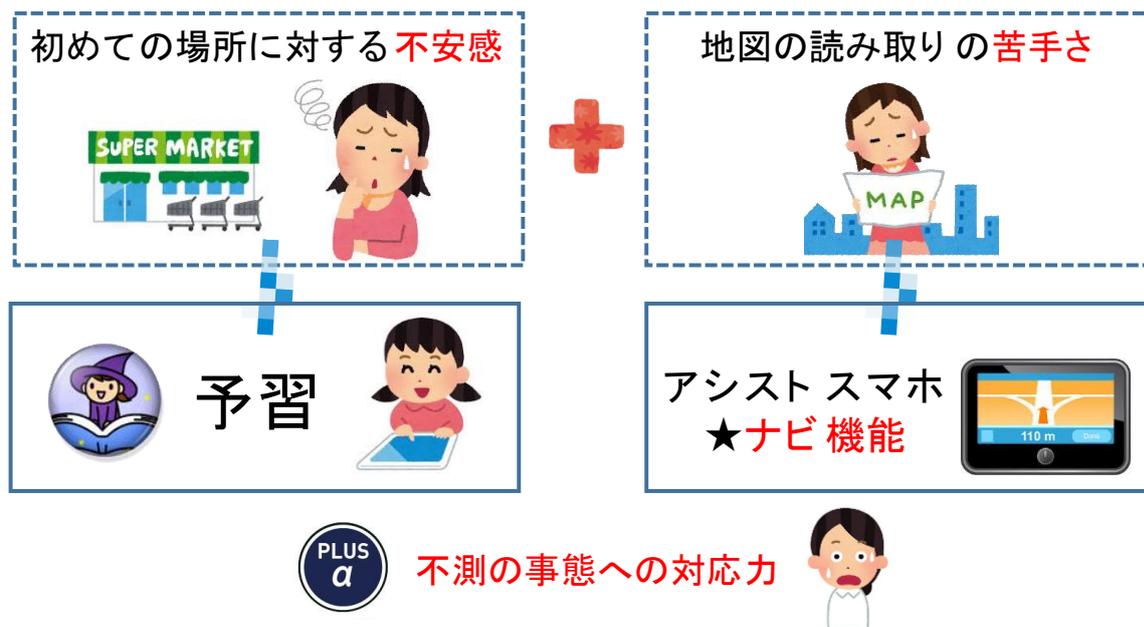
- ・対象生徒は「一人での外出」に対し、主に2つの困りを抱えていた。1つは、“初めての場所に対する不安感”であり、これは“初めてのことに対する抵抗感が強い”という昨年度の主たる困りと関連していると考えられた。もう1つは“地図の読み取りの苦手さ”である。これは、地図を見る経験の少なさとともに、空間認知の弱さが関係していると考えられた。

① “初めての場所に対する不安感”に関しては、昨年度の「魔法の宿題」における実践により、本人が初めてのことに対する不安を低減する方法として、事前にインターネットや本で予習することが自分にとって有効であると自覚している。

② “地図の読み取りの苦手さ”に関しては、アシストスマホのナビ機能（通常のマップアプリのように地図上に自分と目的地の位置が示されるのではなく、カメラを通して道を見ると画面上に進行方向が示される）を活用することとした。



③外出には忘れ物や電車の遅延等の不測の事態がつきものである。本生徒は、**▲ナビ機能の画面例**忘れ物に気づきながらも具体的な対応策を採ることができなかつたことから明らかなように、元々「不測の事態への対応」は苦手なことであった。そこで、合わせて「不測の事態への対応」に関する指導についても行うこととした。





・5月29日(日)には、家庭においてカレーの材料と牛乳を買う練習を行った。その際、買い物ノートを活用し、合計金額とともに税込金額についても学習している様子があった。そこで学校では6月の下旬消費税の学習をするためにコンビニに買い物に行った。店内では、好きなジュースとおやつを買っていよと伝え、見守っていた所、金額表示のどこを見ればいいのか迷っていた(税込みと税抜き)。税抜き表示の値段に1.08をかけることを教えると、税抜きの値段×1.08が税込みの値段になることにその場で気が付き、「なるほど〜!」と納得した表情をしていた。

・その後、家庭においては週末を利用し週に1回のペースで買い物学習を実施した。学校においては6月末

の移動教室において同じグループの後輩が買い物場面でお金が足りるかどうか悩んでいた場面において、自分のスマホを取り出し、計算して「足りる」ということを伝えることができた。

・夏休み中は家庭の事情により指導はしなかったが、夏休み明けの最初の週末に再び家庭において買い物学習を実施した。その振り返りの文章中に「お母さんに頼まれた時、行こうかどうか悩みました。」という記述があったため、学校でそのことについて詳しく聞くことにした。本人としては、お母さんのお使いの買い物はもう充分できるようになったので、自分の好きなものを買に行きたいとのことであった。そこで、本人にアンケートを取り希望を確認し、9月以降は「好きな洋服を一人で買いに行く」という目標を本人、保護者、担任で共有した。



▲希望アンケート

**ステップ2**：「行ったことがないお店に友達を案内する」(学校編)

- ・指導は以下の手順で行った。
  - ①ワークシートを用い、今の気持ち(安心度)を0(不安)~100(安心)で評価する
  - ②iPadやPCを使い、Safariで店の情報、Google Earthで経路等を確認する
  - ③iPadのGoogle Mapを使い、友達を案内するという設定の下、目的地まで行く
  - ④ワークシートを用い、感想を記入する
- ・学校における指導は全4回行い、各回の目的地までの距離と設定等は以下のとおりである。

10月14日	10月18日	11月18日	12月2日
スーパー	お好み焼き屋	キャンドゥ	ファミリーマート
			
学校→店 距離：500m	宿舎→店 (修学旅行) 距離：400m	学校→店 距離：700m	学校→店 距離：800m
友達を案内 担任が撮影	中3全員を案内 担任が撮影	友達を案内 担任以外が撮影	友達を案内 担任以外が撮影

- ・1回目（10月14日）は非常に表情が固く、非常に緊張した様子であった。足取りも速く目的地に無事についても喜ぶ余裕もなかったように感じられた。2回目（10月18日）は、修学旅行先の大阪において宿舎からお好み焼き屋までを案内するという設定であった。大阪は本人にとって完全に知らない土地であったため、事前に教室において担任と何度も Google Earth で経路や周辺の情報を確認した。その結果、無事にお好み焼き屋まで案内することができ、級友からも「すごいね！」と褒められ、1回目の時とは全く違った大変嬉しそうな顔をしていた。
- ・3回目（11月18日）には、Google Earth での予習の際、「駅の近くですか」「隣にスーパーがあります」など、目印を自ら探すようになった。実際に目的地まで歩いている時に、今までスマホの画面を見る時間が長かったのが、曲がり角など重要なポイントでのみ画面をじっくり見るようになった。4回目（12月2日）の予習の際には、「何かパソコン使って調べるって大人っぽいですね！」と言いながら、直前に記入した安心度 50 を自ら消し、「やっぱり 75 くらいです」と修正する様子が見られた。



▲Google Earth で予習する様子

**ステップ3**：「行ったことがないお店に母を案内する」（家庭編）

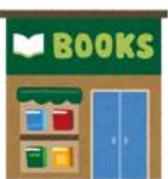
- ・指導の手順は学校とほとんど同様に行った。家の近所のパン屋に母を案内するという設定であり、無事に成功することができた。ワークシートの感想には「少し緊張したけど最後まで案内できて嬉しかったです。グーグルマップを使ってまた行きたいと思いました。」と書かれていた。次の日の朝、母が撮影してくれた動画を担任に嬉しそうに見せながら、「もしいらしたら私が案内します！」と言ってくれた。学校でできるようになったことが、家庭においてもその力を発揮することができ、自信を深めたようであった。

12月3日 パン屋

家→店 距離：約400m
母を案内／母が撮影

**ステップ4**：「行ったことがないお店に完全に一人で買い物に行く」

- ・指導の手順はこれまでと同様に行った。各回の目的地までの距離と設定等は以下のとおりである。

12月11日 ケーキ屋	12月18日 本屋	2月5日 雑貨屋（駅ビル内）
		
家→店 距離：約500m	家→店 距離：約500m	家→店 距離：約500m
完全に一人	完全に一人	完全に一人

- ・1回目（12月11日）、2回目（12月18日）ともに、目的地に一人で無事に到着し、自分の欲しいものを買うことができた。特に2回目の本屋では、憧れていた『CanCam』を買うことができ大変喜んでいました。後に感想を聞くと、「自分との新しい出会いが見えました。」ということであった。

- しかし、この2回は何もかもが上手くいった訳ではなく、2回とも不測の事態が起きていた。ケーキ屋では母が好きなモンブランが2種類あったり、本屋に行く道中には本人が大嫌いなカラスがいたりした。しかし、マインドマップアプリによる学習を事前にしていたせいか、モンブランは母に電話しどちらが良いか聞くことができ、カラスは足早に通り過ぎることができた。ただ、やっぱりカラスは怖かったようで、感想には「行きにカラスがいたけど頑張りました。帰ってから泣いてしまいました。」と書いてあった。

### ○対象児の事後の変化

- 事前にお店の様子や経路を調べ、ナビ機能を活用し目的地に到着するという経験を積み重ねた結果、一人での外出に対する自信を深めた。
- マインドマップの活用により、不測の事態に対する考え方が柔軟になり実際の行動に移すこともできた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ○主観的気づき



- Safari や Google Earth を使って“自ら調べる”という行為が、外出に対する不安感を軽減し、スマホのナビアプリの活用による成功体験の蓄積と、マインドマップアプリによる不測の事態に対する学習が、一人での外出に対する自信を深めることに繋がったのではないかと

#### ○エビデンス（具体的数値など）

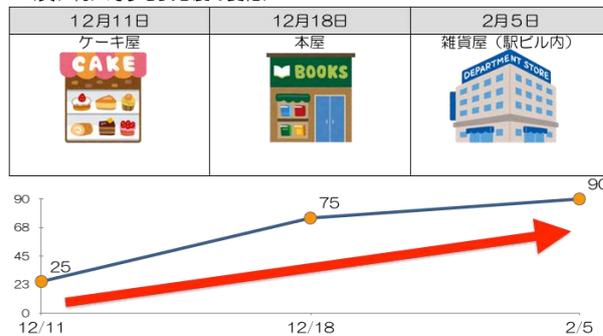
- 今年度の実践では、生徒本人が買い物に出かける前に、今の気持ち（安心度）を0（不安）～100（安心）で評価を行った。安心度の推移の結果を以下のグラフに示す。学校における4回の指導では、回数を経る毎に安心度が上昇し、最終的には75となった。一方、家庭における指導では、完全に一人での買い物1回目となる12月11日は安心度が25となったものの、直近の2月5日は90となり学校における指導と同様安心度が上昇した。また、2月5日のワークシートには今の気持ちの欄に数値だけではなく「自分のほしい物を選びたい」と本人の前向きなコメントが書かれていた。

<買い物に対する安心度の変化>



▲安心度の推移（学校における4回の指導）

<買い物に対する安心度の変化>



▲安心度の推移（家庭における3回の指導）

### 【今後の見通し】

- 本生徒に対して、「気持ちを数値化する」という支援を行ったのは、目に見えない不安を数字という形で可視化する過程を経験することで、彼女自身が将来的に自らの不安と上手く向き合っていくと欲しいと考えたからであった。1回目（10月14日）から、じっくりと考え気持ちを数値化する様子が見られ、4回目（12月2日）には、予習をした結果の自分自身の気持ちの変化に敏感に気づき50から75に自ら修正した。また、2月5日のワークシート内の家庭からのコメント（母親が記載）には「数字で気持ちを表すことによって行く気UPしていました。」と書かれており、数値化することの副次的な効果が見られた。今後は、“不安がある”という意味の50以下の数値の時に、数値の値（不安の大きさ）によって、不安を軽減する手段を適切に彼女自身が講じることができるよう引き続き支援していきたい。